

■実践事例2 【聴覚障がい】小学校・第6学年（Bさん）

相手と関わることに消極的になってしまう児童に対し、語句や文、文章の理解と活用を図りながら、コミュニケーションへの意欲を高めることを目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握



学級担任

Bさんは中等度難聴で、両耳に補聴器を装用しており、必要に応じてFM補聴システムなどの補聴援助機器を活用しています。

聴覚障がいの状態や現在**使用中の補装具等**について把握していますね。**聴覚活用の状況や言語の発達**の程度については、どうでしょうか。



特セン所員



補聴器の装用開始時期が遅かったことから、就学時には言語発達の遅れを指摘されました。生活年齢に比べ、身の回りの生活や学習に関連する基礎的な言葉の理解については不足気味です。

保護者から生育歴や家庭生活の状況を聞いて実態を把握していますね。
では、**言葉による表出**についてはどうですか。



肺活量の不足による声量の小ささや、聞こえにくさがあることに伴う発音の不明瞭さが見られることから、慣れない相手の場合には、伝わりにくいことがあるようです。

自分の意見を相手に伝えたり、相手の話している内容を理解したりすることに課題が見られそうですね。
他者との関わりについてはどうですか。



他者と関わりたい気持ちはあるようですが、自分の気持ちや考えをうまく表現できなかったり、相手の話の内容が分からなくても聞けなかったりするなど、他者と関わることに不安があるようです。

心理的な安定や、人間関係の形成、環境の把握やコミュニケーションの区分から実態を整理して、課題や目標を設定する必要がありますね。



課題の整理

目標の設定



Bさんは、言葉の意味理解が曖昧で、文で表現することも苦手なため、自分の気持ちを伝えることや相手とやり取りすることが難しくなっているのではないかと考えています。

語句や文、文章の意味理解など、**言語概念の形成や活用**に関する指導に取り組む必要がありそうですね。



Bさんがこれまで以上に、自分に自信を持って他者とのやり取りができるようになってほしいと考えています。

項目の選定

Bさんの指導目標を達成するためには、**6区分27項目の中からどの項目を関連付けるとよいでしょうか。**



言語を受容し、表出することができるようになるため、「コミュニケーション(2)」を中心に、「人間関係の形成(4)」などと関連付け、集団でのやり取りを生かした指導内容を考えたいと思います。

指導内容の設定



分からない言葉は、各教科の指導と関連させ、タブレット端末を活用して絵文字カードにまとめる中で、言葉の意味や用法を確認し、調べた言葉を用いて文で表現する活動に取り組みます。

言葉の調べ方や適切な表現の仕方を学ぶ指導ですね。



また、言葉を使って表現するゲームを取り入れ、楽しんで活動に取り組む中で自己表現したり、相手の表現を受容したりする経験を重ねられるようにしたいと考えます。

実際の学校生活の中で、自立活動の成果を発揮する場面は、どのように設定しますか。



交流及び共同学習に取り組む中で、実際に友達などとコミュニケーションをとる場面を設定するほか、会話や聞き取りが難しかった場面について確認し、具体的な対応方法などをBさんと一緒に検討するようにします。

2 指導内容等の整理

情報収集	Bさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は19ページ）						
実態把握	自立活動の区分に即した整理	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		中等度の難聴があり、補聴器を活用しているが、会話の内容を聞き漏らす場面も時折見られる。	相手とのコミュニケーションに消極的になってしまう様子が見られる。	相手の会話の内容を捉えきれない場面が見られる。 他者と関わりたい気持ちがある。	相手の意図や話の展開を推測しながら話しをすることが苦手である。	肺活量の不足による声量の小ささや聞こえにくさに伴う発音の不明瞭さが見られる。	言葉の意味理解の不足や、自己表現など言葉を活用したり取り取りに課題がある。 自分から挨拶ができる。
課題の整理	・ 聞き取りの困難さに伴う言語理解の不足が見られ、他者とのやり取りに消極的になってしまう様子が見られる。 ・ 言語概念の形成や活用に取り組みながら、自分の思いや考えを言葉にして表現できるよう指導する必要がある。						
目標の設定	・ 自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える。 ・ 日常的に学習や生活で用いる語句の意味を理解する。						
項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわり合いの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション	
指導内容の設定	【人(2)、コ(3)】		【人(4)、環(4)、コ(1)(2)(3)】		【健(4)、心(3)、人(4)、コ(2)】		
	① 語句や文、文章の意味理解など、言語概念の形成や活用を図る。		② 言葉を使って表現するゲーム等に取り組みながら、自己表現したり他者の話を理解したりする。		③ 交流及び共同学習を活用し、集団の中でやり取りをする際の具体的な対応方法を身に付ける。		

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容②に関する指導

- ・言葉のやり取りを楽しむゲーム等を活用しながら、自分の考えや思いを言葉にして相手に伝えたり、相手の話を受聴し、気持ちや考えを推察したりするための指導。

○ 「こころかるた」を活用した自立活動の時間における指導例



【「こころかるた（LINGAME アンゲームポケット版）」株式会社クリエイションアカデミー】

「こころかるた」の基本的なルール

- ・「話し手」と「聴き手」に分かれる。
- ・「話し手」はカードを引き、内容を読み上げた後、そのことについて気持ちのままに、話せる範囲で話す。
- ・「聴き手」は話を聞きながら、質問したいことなどを書き留めておく。

【指導の流れ】

- (1) 教師と児童で「話し手」と「聴き手」の順番を決める。
- (2) ルールに沿ってゲームを実施する。（当該児童と教師が一对一で実施する場合）

☆児童が「話し手」のとき

- ・音声のほかに身振りなども使い、自分の言葉で説明できるようにする。
- ・説明に関連する内容について質問し、話題を広げるようにする。

☆児童が「聴き手」のとき

- ・FM補聴器などを装用しながら、相手を注視して話を聞くようにする。
- ・話の内容に興味を持ち、気持ちや考えを想像しながら聞くようにする。

※ 3名以上で実施する場合

☆指導内容③につなげるために

- ・少人数の活動の中で、周囲の状況や相手の気持ち、話の展開を推察する。
- ・聞こえにくくなる状況や場面に対応するための方略を検討する。

【指導のポイント】

- 児童が教師又は友達同士と温かなコミュニケーションをとる力を育むことができるよう、楽しい雰囲気の中で言葉などでのやり取りを行えるようにすること。
- ゲームを実施する中で、児童が自然と自分の考えや思いを言葉で表すことができるように、適切な言語表出や傾聴態度などについて事前に伝えておくようにすること。

【指導の記録】[○…成果 ▲…課題]

(1) 児童の変容

- 考えや気持ちを自分の言葉で表現し、教師や友達同士で理解し合う経験を積み重ねることで、自信を持って他者とのやり取りができるようになった。

(2) 指導の評価・改善

- 指導内容①や③と関連させながら、自立活動の時間における指導として実施することで、他の場面での友達とのやり取りが増えた。
- ▲ 目的を踏まえずにゲームをしてしまうことや、反対に指導的な関わりが中心となってしまうことがないよう、教材を選定する上での意図を明確にするとともに、児童がコミュニケーションを楽しむことを忘れないように指導に当たる必要がある。